

外為マンズリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/11/04

大台の壁が目前の豪ドルとNZドル

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	外部要因とチャートを睨みながら 予想レンジ: 96.000 ~ 102.300 円	2-3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	近くて遠い90円の壁 予想レンジ: 84.500 ~ 90.000 円	4-5
<a href="#">ランド/円</a>	➡	新総裁就任後初の理事会は無風通過か 予想レンジ: 9.500 ~ 11.300 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

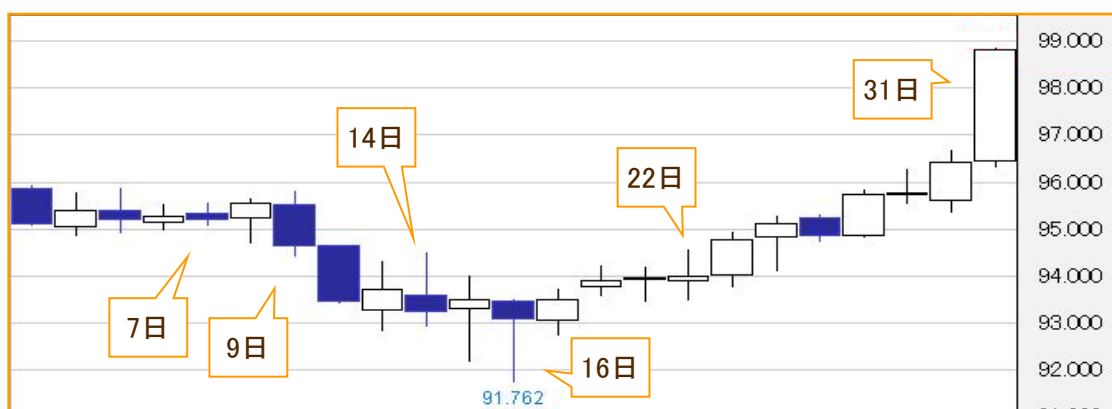
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 豪ドル/円 10月の推移

AUD/JPY

10月の豪ドル/円相場は91.762～98.874円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.2%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

これまで欧州景気を支えてきた独経済の減速が懸念された事や、その懸念が米国にも波及するのではとの見方が広がり、リスク回避の動きを受けて豪ドル/円は下落。しかし下旬に入り、独経済指標が相次いで予想より良好な結果となった事や、米連邦公開市場委員会(FOMC)で米労働市場に楽観的見通しを示した事から、市場は徐々にリスク・オフの流れが後退し、豪ドル/円はじりじりと上昇。更に31日に日銀による予想外の追加金融緩和の実施や、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)関連報道を受けて円売りが強まると共に、世界的に株価が上昇すると、豪ドル/円は昨年5月以来となる98円後半まで上伸した。



### 四本値

OPEN	95.893
HIGH	98.874
LOW	91.762
CLOSE	98.837

7日	豪準備銀行(RBA)は政策金利の据え置き(2.50%)を決定。その際に発表された声明文は前月とあまり変わらない内容であったため、豪ドル/円相場の反応は限定的。しかし、安倍首相の「円安による輸入価格高騰でマイナス影響を受ける企業がある」「円安で中小規模事業者にデメリットが出てきている」等の発言を受けて円買い戻しが強まった。国際通貨基金(IMF)が2014年と2015年の世界経済の成長見通しを引き下げた事を嫌気してNYダウ平均が270ドル超下落すると、95.098円まで続落した。
9日	豪9月の失業率が6.1%、新規雇用者数は前月比2.97万人減と、予想(6.1%、1.55万人増)より弱い結果となった。豪ドル/円は瞬間的に95.202円まで下落したが、前日に豪統計局が7-9月の雇用統計に季節調整の歪みが生じた事を明らかにしていた事もあって(8月の新規雇用者数は12.10万人増→3.21万人増に修正)、すぐに値を戻すなど、反応は一時的。その後、世界的な景気減速が懸念される中、NYダウ平均が300ドルを超えて下落。リスク回避の動きが強まり米ドルと円に買いが集まった結果、豪ドル/円は94.441円まで急落した。
14日	予想を下回る独経済指標の発表を受け、これまで欧州景気を支えてきた独経済の先行きに不安が広がり、欧州株が下落すると、豪ドル/円は下落。NYダウ平均が一時マイナスに転じた事や、NY原油が81ドル台前半に急落した事も重石となり、92.953円まで一段安となった。
16日	前日発表された米9月小売売上高が予想を下回る結果となり、米経済が予想されたほど強くないのではとの見方が浮上した事などから、世界経済の成長減速懸念を背景に、欧州株が軟調に推移。これを嫌気して豪ドル/円は今年3月以来となる91.762円まで下落。ただ、その後は米セントルイス連銀のブラード総裁の「米連邦公開市場委員会(FOMC)は量的緩和終了の先送りを検討すべき」との発言を受け、200ドル超下落していたNYダウ平均が一時プラス圏を回復すると、93円台を回復した。
22日	豪第3四半期消費者物価は前期比が+0.5%、前年比は+2.3%、基調インフレ率は前年比2.55%(予想:+0.4%、+2.3%、+2.65%)となった。直後は基調インフレ率が予想を下回った事を受けて豪ドル売りで反応するも、全体を通して見ると前期比が予想を上回った事などから、間もなく反発した。
31日	日銀が予想外の追加金融緩和(年間約80兆円のマネタリーベース増加、保有する長期国債の平均残存期間を7~10年に長期化、ETFとJ-REITの保有残高を3倍の3兆円に増額)に踏み切った事や、GPIFが新資産構成の目標値を発表した事で円売りが強まり、豪ドル/円は急騰。この動きを受けて欧米市場で株高が進むと、98.874円まで一段高となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	16173.39
HIGH	16533.91
LOW	14529.03
CLOSE	16413.76

## NYダウ平均

OPEN	17040.46
HIGH	17395.54
LOW	15855.12
CLOSE	17390.52

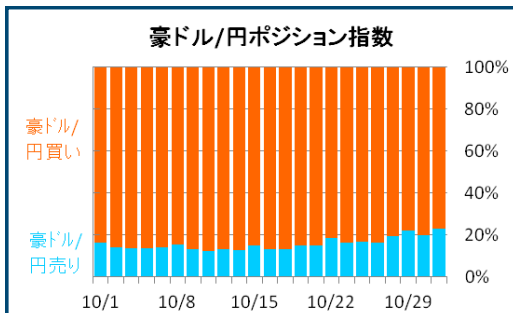
## 上海総合指数

OPEN	2368.576
HIGH	2423.595
LOW	2279.836
CLOSE	2420.178

## 豪10年債利回

OPEN	3.5020%
HIGH	3.5020%
LOW	3.1580%
CLOSE	3.2840%

## 10月のポジション動向



## 11月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・RBAキャシュターゲット(4日)
- ・中国11月HSBCフラッシュ製造業PMI(20日)
- ・豪10月雇用統計(6日)
- ・主要国株価
- ・RBA四半期金融政策報告(7日)
- ・国際商品価格
- ・米10月雇用統計(7日)
- ・日7-9月期国内総生産・一次速報(17日)
- ・RBA議事録(18日)
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)

## 11月の見通し

今月、豪州ではRBA四半期金融政策報告(7日)が発表される。通常であればRBAの次の金融政策を占う上で重要視されるが、4日のRBA理事会の声明文を見る限り、政策金利の据え置きが示唆されている事や、豪ドル高懸念が和らいだ事などから、8月に続き政策金利の維持を表明する可能性が高い。その場合は豪ドル/円相場にとって無風通過となる可能性がある。その他、前回時点と較べてGDPやインフレ見通しに変更があるかにも注目したい。

また、先月の豪ドル/円の上昇は、グローバル経済の減速懸念が和らいだ事や、本邦の追加金融緩和を受けた円安の進行によるところが大きい。今月も引き続き米国や欧州、中国経済の動向や、米利上げ観測の高まり又は後退を受けた豪ドル/米ドル相場の動向、本邦の消費増税の行方など、外部要因が豪ドル/円相場のカギを握る事となりそうだ。

しかし、テクニカル面では、先月に一度下抜いた200日移動平均線を再び上抜いた事で上値模索の流れとなり、今月3日に99.390円まで上昇している。3日高値を突破すると100円の大台は目の前であり、仮に大台に乗せると、次は2013年5月高値(102.322円)まで主だった目標値が見当たらない。100.50円や101.00円といった、きりの良い処を目指す事となるだろう。(川畑)

(予想レンジ: 96.000~102.300円)

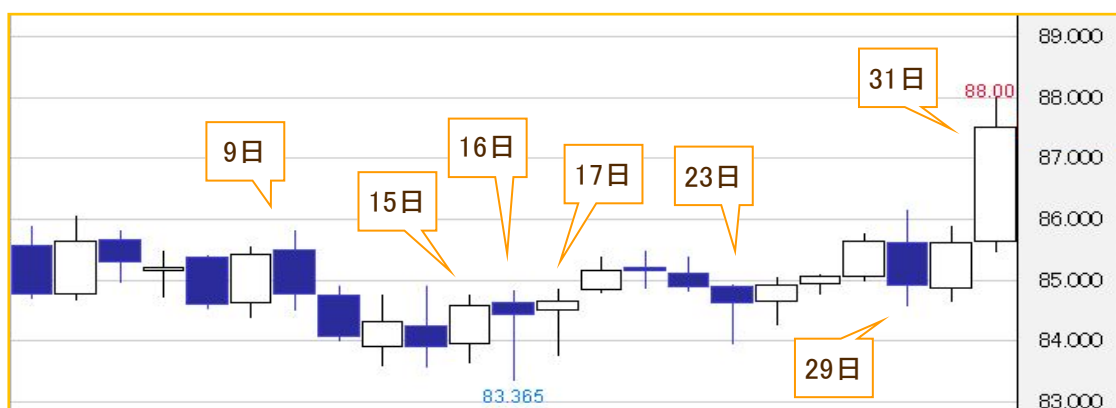


## NZドル/円 10月の推移

NZD / JPY

10月のNZドル/円相場は83.365～88.009円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.3%の上昇(NZドル高・円安)となった。

NZドル/円は86円ちょうど前後が重く、一方で独や米の景気減速が懸念される場面でも83円台前半で底堅さを見せるという、レンジが継続。この間、NZではインフレ指標や金融政策発表といった重要イベントが相次ぐも、いずれもレンジブレイクの決定打にはならなかった。しかし、31日に日銀による予想外の追加金融緩和の実施や、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)関連報道を受けて円売りが強まると共に、世界的に株価が上昇すると、それまでのレンジを上抜き、約1ヵ月ぶりに88円台にタッチして取引を終えた。



## 四本値

OPEN	85.583
HIGH	88.009
LOW	83.365
CLOSE	87.531

9日	世界的な景気減速が懸念される中、NYダウ平均が300ドルを超えて下落。リスク回避の動きが強まり米ドルと円に買いが集まった結果、NZドル/円は84.527円まで急落した。
15日	米9月小売売上が予想を下回る結果となり、米経済が予想されたほど強くないのではとの見方が浮上。これを嫌気してドル/円が急落すると83.80円前後まで連れ安するも、その後はドル/円が下げ幅を縮小するのに連れて反発した。
16日	前日の流れを引き継いで欧州株安が進むと、NZドル/円は今年2月以来となる83.365円まで急落。ただ、その後は米セントルイス連銀のブロード総裁の「米連邦公開市場委員会(FOMC)は量的緩和終了の先送りを検討すべき」との発言を受け、200ドル超下落していたNYダウ平均が一時的にプラス圏を回復すると、84.60円台まで反発した。
17日	RBNZ(NZ準備銀行)が「為替レートの水準は正当化されず持続不能」とNZドル高を牽制する見解を示したと報じられると、NZドル/円は60銭ほど急落して83.789円まで下落。しかしその後、同報道が誤報であった事が明らかとなると報道前の水準に反発した。
23日	NZ第3四半期消費者物価は前期比+0.3%、前年比+1.0%と予想(+0.5%、+1.2%)を下回った。前年比がRBNZのインフレ目標(年1～3%)の下限に到達した事から、市場では来年第1四半期と予想されていたRBNZの利上げ開始が先送りされるの見方が強まり、NZドル/円は93.965円まで下落。ただ、その後は中国10月HSBC/マークイット製造業PMI・速報値が50.4と予想(50.2)を上回ったのを始め、独10月製造業PMI・速報値が51.8(予想:49.5)、ユーロ圏10月製造業PMI・速報値は50.7(同、49.9)と、いずれも好不況の分岐点とされる50を上回った。中国や欧州の景気減速懸念が和らいだ事を受けて欧米株が上昇すると、84.805円まで反発した。
29日	米FOMC声明で米労働市場に楽観的見通しが示された事で米ドル買いが強まり、NZドル/米ドルが急落すると、NZドル/円は下落。RBNZが声明で「更なる引き締めが必要」との文言を削除した事や、NZドル高を牽制した事もNZドル売りの材料となり(政策金利は3.50%で据え置き)、NZドル/円は84.592円まで一段安となった。
31日	日銀が予想外の追加金融緩和(年間約80兆円のマネタリーベース増加、保有する長期国債の平均残存期間を7～10年に長期化、ETFとJ-REITの保有残高を3倍の3兆円に増額)に踏み切った事やGPIFが新資産構成の目標値を発表した事で円売りが強まり、NZドル/円は急騰。この動きを受けて欧米市場で株高が進むと、88.009円まで一段高となった。

## NZD/JPY

## 日 経 平 均

OPEN	16173.39
HIGH	16533.91
LOW	14529.03
CLOSE	16413.76

## NYダウ平均

OPEN	17040.46
HIGH	17395.54
LOW	15855.12
CLOSE	17390.52

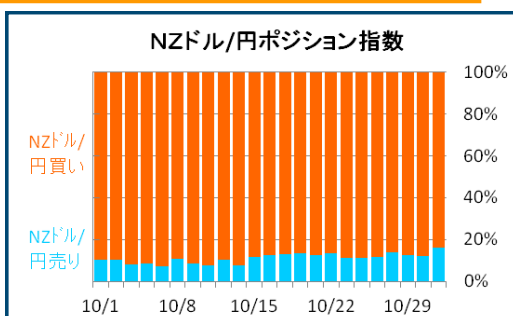
## 上海総合指数

OPEN	2368.576
HIGH	2423.595
LOW	2279.836
CLOSE	2420.178

## NZ10年債利回

OPEN	4.1360%
HIGH	4.1430%
LOW	3.9340%
CLOSE	3.9850%

## 10月のポジション動向



## 11月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・NZ乳業大手フォンテラ入札(4日、18日)
- ・NZ7-9月期失業率(4日)
- ・米10月雇用統計(7日)
- ・NZ7-9月期小売売上高(17日)
- ・日7-9月期国内総生産・一次速報(17日)
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)
- ・中国11月HSBCフラッシュ製造業PMI(20日)
- ・主要国株価
- ・国際商品価格

## 11月の見通し

先月のNZドル/円の上昇幅は2.3%と、豪ドル/円(3.2%)やランド/円(4.8%)と比べ小幅であった。また、これらの通貨は昨年5月以来の高値を付けるも、NZドル/円は今年4月高値(89.924円)に届かないなど、上昇の鈍さが目立つ。今月、NZ国内では金融政策発表が予定されていない為、目玉となるイベントを欠く中ではあるが、NZ乳業大手フォンテラが実施する乳製品入札(4日、18日)を始め、NZ7-9月期失業率(4日)などを確認しつつ、NZ経済の体力を確かめる事となろう。もっとも、先月のRBNZ声明により利上げ観測が後退している上、NZドル/円は今年4月高値に迫っている事から、NZで発表される経済指標がよほどの好結果とならない限り、ここから先はNZドル/円を買い進めるのは容易ではなさそうだ。引き続き、90円の大台が抵抗として機能するだろう。

その他、本邦の消費増税や日米の金融政策の方向性の違いを睨んだドル/円相場の動向や、米経済指標を受けた利上げ観測の高まり又は後退を受けたNZドル/米ドルの動向、主要国の株価動向もまた、NZドル/円相場を動かす手掛かり材料となろう。(川畑)

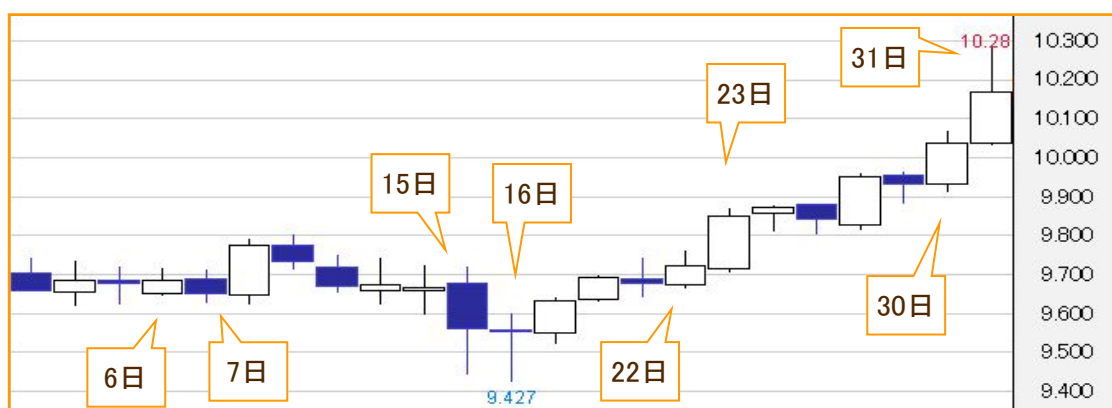
(予想レンジ: 84.500~90.000円)

## ランド/円 10月の推移

# ZAR/JPY

10月のランド/円相場は9.427～10.285円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.8%の上昇（ランド高・円安）となった。

それまで欧州景気を支えてきた独経済の減速が懸念された事や、その懸念が米国にも波及するのではとの見方からリスク回避の動きが広がり、ランド/円は下落。しかし下旬に入り、独経済指標が相次いで予想より良好な結果となった事や、米連邦公開市場委員会（FOMC）で米労働市場に楽観の見通しを示した事から、市場は徐々にリスク・オフの流れが後退し、ランド/円はじりじりと上昇。31日に日銀による予想外の追加金融緩和の実施や、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）関連報道を受けて円売りが強まり、ランド/円は昨年5月以来となる10円前半まで上伸した。



### 四本値

OPEN	9.705
HIGH	10.285
LOW	9.427
CLOSE	10.173

6日	南アのズマ大統領は次期SARB総裁に、SARBのレシェチャ・ハニアフ副総裁を指名。ただ、ランド/円相場の反応は薄かった。
7日	国際通貨基金（IMF）が2014年と2015年の世界経済の成長率予想を7月時点より引き下げた事を嫌気して、NYダウ平均が下落。また、南アについては長引くストライキや企業の業況感の低迷、電気の供給不足から低成長に陥っていると指摘し、14年の経済成長見通しが1.4%、2015年は2.3%と、7月時点からそれぞれ0.3%、0.2%下方修正した。これらを受け、ランド/円は9.630円まで下落した。
15日	米9月小売売上が予想を下回る結果となり、米経済が予想されたほど強くないのではとの見方が浮上。世界経済の成長減速懸念を背景としたリスク回避ムードが広がり、ランド/円は9.448円まで急落した。
16日	前日の流れを引き継いで欧州株安が進むと、ランド/円は9.427円まで急落。ただ、その後は米セントルイス連銀のブロード総裁の「米連邦公開市場委員会（FOMC）は量的緩和終了の先送りを検討すべき」との発言を受け、200ドル超下落していたNYダウ平均が一時プラス圏を回復すると急速に下げ幅を縮小した。
22日	南ア9月消費者物価指数は前年比+5.9%と予想（+6.1%）を下回り、2月以来7ヵ月ぶりにSARBのインフレ目標レンジ（年3～6%）内に戻した。ただ、ランド/円相場の反応は薄かった。
23日	中国10月HSBC/マークイット製造業PMI・速報値が50.4と予想（50.2）を上回ったのを始め、独10月製造業PMI・速報値が51.8（予想：49.5）、ユーロ圏10月製造業PMI・速報値は50.7（同、49.9）と、いずれも好不況の分岐点とされる50を上回った。中国や欧州の景気減速懸念が和らいだ事を受けて欧米株が上昇すると、ランド/円は9.870円まで上昇した。
30日	南ア7～9月期失業率が25.4%と予想（25.6%）より良好な結果となるも、ランド/円相場の反応は限定的。その後、日経新聞が「GPIFが31日にも、新しい運用比率の目安を発表。国内債券を現行の6割から中長期的に35%に下げる一方、国内株式を25%に引き上げる見通し」と報じた。これを受けて円売りが強まると、10.070円まで値を上げた。
31日	日銀が予想外の追加金融緩和（年間約80兆円のマネタリーベース増加、保有する長期国債の平均残存期間を7～10年に長期化、ETFとJ-REITの保有残高を3倍の3兆円に増額）に踏み切った事やGPIFが新資産構成の目標値を発表した事で円売りが強まり、ランド/円は急騰。この動きを受けて欧米市場で株高が進むと、2013年9月以来の高値となる10.285円まで一段高となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## 日 経 平 均

OPEN	16173.39
HIGH	16533.91
LOW	14529.03
CLOSE	16413.76

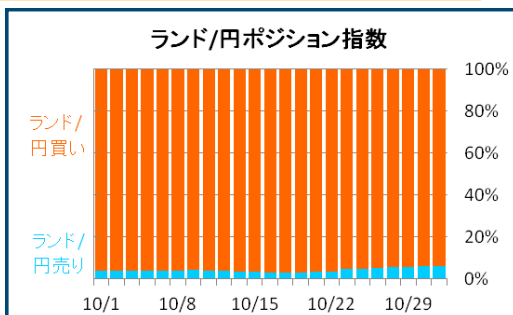
## NYダウ平均

OPEN	17040.46
HIGH	17395.54
LOW	15855.12
CLOSE	17390.52

## N Y 金

OPEN	1207.70
HIGH	1251.00
LOW	1160.50
CLOSE	1171.60

## 10月のポジション動向



## 11月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米10月雇用統計(7日)
- ・南ア7-9月期国内総生産(25日)
- ・日7-9月期国内総生産・一次速報(17日)
- ・国際商品価格
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)
- ・主要国株価
- ・南ア10月消費者物価指数(19日)
- ・中国11月HSBCフラッシュ製造業PMI(20日)
- ・SARB金融政策発表(20日)

## 11月の見通し

今月、南アフリカではハニアフ氏が総裁就任後初の金融政策会合が20日に行われる。通常であれば新総裁の発言に注目が集まるところであるが、今回の総裁人事は内部昇格(同氏の前職はSARB副総裁)である上、就任会見でマーカス前総裁の路線の踏襲を示唆していることから、新総裁の就任によりSARBの金融政策が大きく変わるとは考えにくく、ランド相場を動かすイベントにはなりにくいだろう。なお政策金利は5.75%で据え置かれる公算である。前月の消費者物価指数が7ヵ月ぶりにSARBのインフレ目標レンジ(年3~6%)に納まったことから、インフレ抑制目的での利上げの可能性が後退している事が大きい。会合前日に発表される南ア10月消費者物価指数にも注目したい。

南ア国外では、先月に続き、グローバル経済の動向や、先月のランド/円急騰のきっかけとなったドル/円相場の動向を睨みながらの推移が予想される。もっとも、先月IMFが今年と来年の南アの経済成長見通しを7月時点より引き下げた事や、7-9月期失業率は予想を下回るも依然として25%台であるなど、同国は当面の間、低成長が続く公算が大きい。仮にリスク・オフの場面となったとしても、日米金融政策の方向性の明確な違いを背景としたドル/円の様な大幅上昇にはなりにくいと見る。(川畑)

(予想レンジ: 9.500~11.300円)